

JUDI大賞中国ブロック
「公共空間活用への一連の取り組み」

松波 龍一
MATUNAMI RYUICHI
松波計画事務所

1 オープンカフェ・・・

広島市の都心部で、豊かなオープンスペースを活用して賑わいを創り出そうという取り組みである。内容は、オープンカフェ、パラソルギャラリー、ミニコンサートなどが中心である。その時々、その場その場でいろいろな市民団体が連携して継続的に取り組んできたが、次第に場所も拡がり、広島風の風物詩となりつつある。受賞対象団体として、カフェテラス倶楽部、広島青年会議所、平和大通り有効活用実行委員会、建築士会広島支部まちづくり委員会、上幟町東・京橋川水辺のまちづくり委員会、元安川河岸緑地有効活用実行委員会をあげた。

以下に、簡単に取り組みの経緯を紹介する（見出し行”：”に続くアルファベットは次ページの地図中のポイントを、数字は実施年を示す）。

2 カフェテラス倶楽部の実践：A～E、G、I、1995～

カフェテラス倶楽部は、平和大通りや河岸緑地でコーヒーを飲もうという有志が集まり、1995年に発足した。公園や緑地に椅子テーブルやパラソルを持ち込んでドリップコーヒーの無料サービス提供（カフェテラスゲリラといっている）、事例や制度の研究、他のカフェテラス開設への協力など、カフェテラス実現に向けて様々な活動を続けている。多くの場所でカフェテラスゲリラを実践してきたが、現在では平和大通りの定点で月1回ペースで実施。実施回数はすでに70回を超えた。

3 オープンカフェナイト開催：D、E、F、G、1996～1998

広島文化デザイン会議（事務局：広島青年会議所）の分科会イベントとして、3年連続で平和大通りの緑地帯に2日間の無料オープンカフェを開設した。このオープンカフェの開設は、その後の平和大通りや元安川河岸緑地における実行委員会形式による実施にあたって、よい先例となった。

4 平和大通りのオープンカフェ：D、F、1998～

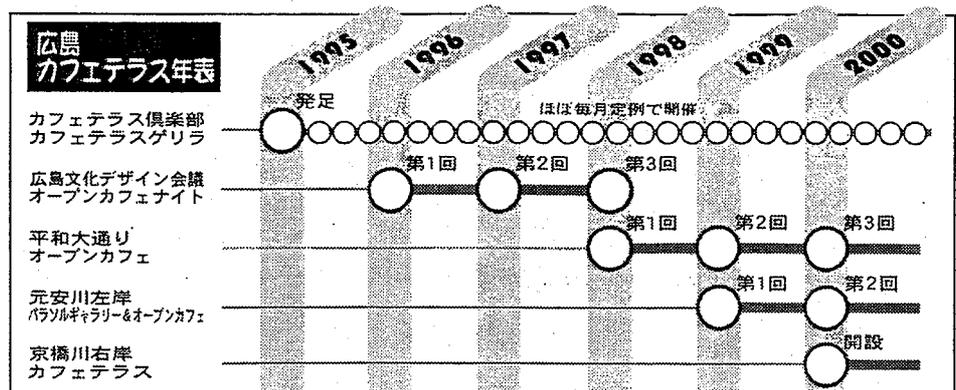
広島市の公共空間を活用した賑わいづくり事業の最初の取組として、平和大通り有効活用実行委員会（事務局：広島市観光協会）が平和大通り緑地帯で本格的なオープンカフェを開設した。初年度は直営で、2年目以降は出店者をコンペで選定し委託する方法で営業している。初年度は1ヵ月間、2年目は2ヵ月間と開設期間を拡大している。

5 元安川河岸緑地のパラソルギャラリー&カフェ：H、1999～

元安川河岸利緑地有効活用実行委員会（事務局：広島市観光協会）が河岸緑地を市民や観光客にとって魅力的な空間とするため、原爆ドーム南側の河岸緑地（元安川左岸）に公募による「パラソルギャラリー」と直営方式による「オープンカフェ」を開設した。初年度は2ヵ月間の試行を経て、2年目は7ヵ月間と実施期間を拡大している。オープンカフェでは、新規に開発したテイクアウトブース「オクトカフェ」を使用し、全体のシンボルとしている。

6 京橋川河岸緑地のカフェテラス：I、J、2000～

京橋川右岸の上幟町東地区の地元町内会が主体となり「上幟町東・京橋川水辺のまちづくり委員会」（事務局：広島市都市デザイン室）を結成し、河岸に立地する2つのホテルの地先緑地帯にカフェテラスを開設した。運営はホテルに委託して行い、カフェの収益は委員会の公益的な活動事業費として還元される。初年度の2000年は8月18日～10月29日の毎日、計73日間開設した。このカフェテラスの開設に先立ち、建築士会広島支部まちづくり委員会とカフェテラス倶楽部が協力して、1999年末から京橋川右岸河岸緑地で無料カフェテラスを月1回開設し、利用者へのアンケートや地元へのチラシ配付などの支援活動を行っている。





カフェテラス倶楽部のゲリラ風景 (D)



オープンナイトカフェ実施 (G)



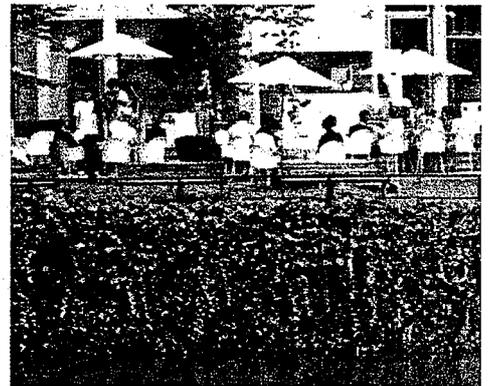
元安川沿いのパラソルギャラリー (H)



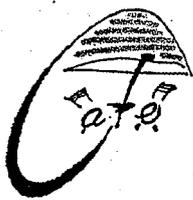
平和大通りのオープンカフェ (F)



京橋川沿いに開設したオープンカフェ (J)



京橋川沿いに開設したオープンカフェ (I)



カフェテラス倶楽部の
シンボルマーク

元安川のオープンカフェで
使用している「オクトカフェ」

